



教育委員会だより

「多久から発信！SDGs 20」

「キャリア教育」

近年、子どもたちの生きる力を育成する観点から、学校での学びと社会との関連性を教え、学習習慣を確立させる「キャリア教育」が重要視されています。子どもたちが、学校の係活動や委員会活動を通して自分の役割を果たそうとしたり、家庭の一員としてお手伝いをするのも、この「キャリア教育」に関する活動と言えます。市内義務教育学校では、9年間を通してこの教育に関する取り組みを進めています。

多久市では平成19年、市内中学校3校が「キャリア教育実践プロジェクト」の研究委嘱を受けました。そして、市内69か所の事業所の協力を得て、3校合同で職場体験学習を開始しました。ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていませんでしたが、今年度は8年生の子どもたちを対象として行います。

子どもたちが「働くこと」を通して、人と関わり合う力を高めることはもちろん、前向きに行動する力や働くことを大切にすることを養います。また、将来に向けて、自己の生き方を考えていきます。

この職場体験を通じて働くことの喜びや意義を感じ、大きく成長する8年生の姿が楽しみです。



連載

野の仏ギャラリー ⑤

十三仏



※写真には十三仏以外の三体が含まれています

北多久町天徳寺

十三仏は冥界(冥途)の審理などに関わる仏で、十三回の供養(法事)を主宰するとされます。現在、稻荷堂の側に十三仏と石造物八体(基の計二十一体基があります。十三仏は不動明王、釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩、地藏菩薩、弥勒菩薩、薬師如来、観世音菩薩、勢至菩薩、阿彌陀如来、阿闍如来、大日如来、虚空蔵菩薩です。十三仏の台には今町・京町・通(東)町・南薫西町・日吉町など(現)久留米市の地名が記載されていますが、紀年銘はありません。天徳寺に久留米市在住者からの寄進柱があり、多くは大正十二〜十四年と刻まれています。また、天徳寺十三仏の像容に酷似する十三仏が中原町にあり、大正十三年と刻まれています。この事により、大正末期から昭和初期頃、天徳寺に安置されたと推定されます。

多久市郷土資料館長 藤井伸幸

市民文芸

偽りの水鏡なり田の面に
新緑の影数多写せり
川浪 信子

先延ばしするのをやめた今すぐに
愛する人に微笑みかける
野崎 隆幸

エヴェレスト大昔には海の底
命をかけて登山す人等あり
浦野 嘉恵

「痛い」とは生きている証拠と励まして
「笑っていきましょうね」いたわり合って
梶原恵美子

さまざまな才能をもつ人間が
地球をこわすことばかりする
尾形 節子

雨音に一人の時間 新茶酌む
富樫 明美

お帰りと妣の居さうな夏座敷
おおやはな
本村 則子

卒寿へと心弾ます若葉風
五月晴
中嶋 清子

ボール蹴る子等の歓声
半襟を替ふる待針みどりの夜
大石ひろ女

また一軒過疎の町より消えてゆく
中尾 和弘

青空に新緑映える里の夏
田中 正春

電気代ポチのクーラー 思案中
井上 東子

肌焼けず夏も色白テレワーク
田代えみ子
ときめいてロマン誘う 吉野ケ里
高塚チカ子

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《大石ひろ女選》

川柳 《多久川柳会 互選》